

—奈良県—

平城宮跡歴史公園「朱雀門ひろば」について

1. はじめに

平成30年3月24日（土）、平城宮跡歴史公園「朱雀門ひろば」が開園した。

本稿では平城宮跡歴史公園整備事業の概要について紹介する。



開園記念イベントの様子



移設後の復原遣唐使船

2. 事業の概要

平城宮跡歴史公園は、歴史・文化資産であり、特別史跡に指定され、世界遺産にもなっている。「朱雀門ひろば」の整備は、平城宮跡の一層の保存・活用を図ることを目的として、平成21年に事業認可された。

平成20年に策定された基本計画では、公園の果たすべき役割や導入すべき機能を踏まえて、公園区域を4つのゾーンに分けている。そのうちの1つである“拠点ゾーン”は公園のガイダンスや観光の拠点となる施設等を集約的に設けるゾーンとして位置付けられ、拠点ゾーン整備計画（平成25年策定）を基に朱雀大路西側地区（約3.1ha）について、奈良県が整備を行うこととなった。

朱雀大路西側地区は主に、飲食・交流施設「天平うまし館」、観光案内・物販施設「天平みつき館」、団体集合施設「天平つどい館」、休憩・宮跡展望施設「天平みはらし館」という4棟の建築物及び、復原遣唐使船で構成されている。その中の復原遣唐使船は、平城遷都1300年祭時（2010年）から旧平城京歴史館（現天平みはらし館）前に展示されていたものを改修し、移設したものである。復原遣唐使船は木造であり、改修には船大工の特殊な技術が必要であったため、静岡県伊豆半島にある木造の造船が可能な造船所で改修を行った。

工事の進捗管理にあたっては、開園時期が決まっている中、複数の工事が同一敷地内で施工されることもあり、手戻りが許されない状況であった。このため、現場内で施工業者を交えて毎週工程調整会議を行った。工程調整会議では、各工事の進捗状況や調整が必要な事項、施工箇所図、工程表等を資料として取りまとめることで、工事の取り合い調整やスケジュール管理を適切に行うように努めた。その結果、大きな手戻りや工程の遅れは特に起きることがなく、円滑に工事を進めることができた。また、施工業者協力のもと、毎週ドローン空撮写真を撮影することにより、面的だけでなく立体的に進捗状況を把握することができた。



ドローン空撮写真（開園10日前）

3. おわりに

無事に開園を迎えることができたのは地元住民の方々のご理解をはじめ、各関係機関や施工業者の協力があったこそであり、ここに感謝の意を示します。

（奈良県 奈良公園事務所 整備課 伊藤 仁）